



改革論議 (大内 民 惠)

第五章 中學校

序に中等教員の非常識の一例をあげて置きますが最近某縣某地方で一地方の父兄側が主催者になつて某中學校で父兄會を組織し其當校長が出張中なので代つて教頭が父兄の代表者と協議して其の準備に取りかゝつたのであります

鮮魚共同取引所 再び停止命令 平署員の監視で全く封鎖 組合長認可の陳情に出願 市場側では妥協の腹

平町魚市場に反對の行商連急進認可を請ふべく縣廳に設置した白銀町の石城鮮魚出頭したが地元白銀町から魚商共同取引所は過激派かも町繁榮上町議高松氏ら認可あるまで取引を中止外百三十余名の連署を以てすべく通達を受けたので認可の陳情が出てゐるのであるが當時同所設置の主要者鈴木此際ならば魚市場側でも或木又六氏外数名の幹部連が程度までの仲裁案を容れて四丁目北裏佐川純太郎氏宅妥協しそうな模様にも見られ協議の結果多少の犠牲者を出して迄も前記市場に對抗すべく依然取引を續くる一方に於て縣會議員其他の有志を頼み正式認可の運動中であるが六日再び縣商工課から市場法に違反する行為を引を停止せよと平署を経て嚴重なる通告を受けた七日朝相變らず取引を行はんとした平署員の監視に全く封鎖され鈴木又六氏は同日警署をなす宮である

平署の警告

家調委員選 舉に對して

選舉氣分愈々濃厚 競争は免かれまい 平町で既に名乗上 けた數氏が運動開始

家調委員選舉の氣分は漸く濃厚を見せ各地共に候補者物色の忙はしさを呈して來たが平町に於ける無競争標榜の各派代表去六日の協議の結果は十八名の推薦者を持寄つたが一二丁目及び三石城郡神谷村の鎌田居住古四町目が末推薦の爲七日午前物商茨城縣橋本郡金江津村後一時町會議事堂に再會を生れ橋本秀次郎(西)は此種小開いて撰衝中であるに既に名濱町魚商鈴木勝雄(三)が名乗を上げた左記數氏は早他人から預つたリヤカー一も運動を開始し尙ほ引續きを同人の所有か否かを確いて自由候補が出る模様であるが七圓五十銭給付であるから結局競争は免かれられたこと平署に覺悟し検査まいと見られてゐる

解雇手當を逃げる 警炭の轉山策 多賀の經營坑の紛擾

警城炭礦に於て經營し來つてつて解雇の諸手當支給た茨城縣多賀郡の重内外一を逃げてやうとするものであ坑の事業縮小に係る簡非唯ると唱へられてゐる同争議變化がない限り尙ほ相當の業九百名の中四百名を警あつて之れが爲め内郷備である炭内郷備業所に轉出させ操所の幹部級は總出拂ひの忙として端なくも紛擾を惹起はしさを呈してゐる

警署の警告 家調委員選 舉に對して

飛んでない 正七位様 床屋の受難

石城郡湯本町三箇の理髮業中前里町船會社船中乗込の一等機手正七位御五等林三郎と稱する三十五六才の男が來て繁を同船乗込の理髮師に世話をすからと甘口に乘せて現金六十圓の運動費を騙取した上に同家へ三日二夜泊りして酒を飲ませた事を受け出たが待たれぬ返事がなかつたので横濱まで訪ねた繁が初めて詐欺と判り平署に於て犯人探中であつたが本月一日北海道小樽署に逮捕された同地若前郡天賣村住れ住所不定前科四犯の中津川鎮平(三)が其男である七日平署に知らされた

小名濱に初鯉 各濱愈々活氣づく

鯉漁期を控いてゐる石城の定員十二名を超過せざる立各濱は六日午後縣水試鯉候捕に努めてゐたが逸早く城丸が去四日午後津浦海軍若松船助氏の正式届出を以て於て漁獲した鯉五百余尾たので所記の協調は漸く乱及び結尾を小名濱に水揚げれんとする向は平署管内に於て正式に届出た候者は左記の如くである

湯本町でも 協調難 家調委員選舉

二男拳雄 儀病氣の處本月六日午後八時四十五分死去致候 此段御通知申上候 追而葬送の儀は五月八日午後三時自宅出棺良善寺に於て佛式にて執行仕候 昭和五年五月六日 石城郡平町野虎三郎

水野家の計 平町古鍛冶水野虎三郎氏二男拳雄君は豫て病發中であつたが薬石効なく六日午後三時遂に逝去した君は警中廿九回の卒業で同校野選手である程の健康者であつたものを行年廿一歳惜しい青年である

外親野虎三郎

